徳島新聞　　令和6年3月4日（月）

ゲノム医療とがん
最新の治療法紹介
市民ら理解深める
徳大病院フォーラム

遺伝子情報を基に病気の診断や治療を行うゲノム医療とがんをテーマにした「徳島大学病院フォーラム2024春」（徳島大学病院主催、徳島新聞社共催）が3日、徳島市の徳島大蔵本キャンパスであった。同病院の医師7人が最新の治療法などを紹介し、市民ら353人が理解を深めた。

2部構成で行われ、第1部は3人がゲノム医療の現状を解説した。脳神経内科の藤田浩司副診療科長は、家族性アルツハイマー病患者のゲノム研究を通じて病気の発症メカニズムの解明が進んだことや、原因物質であるアミロイドβを除去する治療薬が開発されたことを紹介した。その上で「近い将来、予防法の開発にもつながる可能性がある」と述べた。

第2部では、乳がんや膵臓がんの治療について4人が話した。呼吸器外科の鳥羽博明副診療科長は、肺がん手術は体に開けた小さな穴から器具を入れて行う胸腔鏡手術が主流になり、体への負担が減っていると説明。小さな肺がんでは、従来より切除する部分を少なくする手法も確立されており、「徳島大学病院ではこれらの手術に対応している」と語った。（佐藤亮）

ゲノム研究を通じたアルツハイマー病治療について話す藤田副診療科長＝徳島市の徳島大蔵本キャンパス